

平成25年度

事業報告書

(第7期事業年度)



自 平成25年4月 1日

至 平成26年3月31日

北海道公立大学法人 札幌医科大学

目 次

1 大学の概要

(1) 大学名	1
(2) 所在地	1
(3) 役員の状況	1
(4) 学部等の構成	1
① 学部等	1
② 大学院	1
③ 助産学専攻科	2
④ 附属病院	2
⑤ その他の附属施設等	2
(5) 学生数及び教員数	2
(6) 沿革	2
(7) 建学の精神	3
(8) 理念	3
(9) 行動規範	3
(10) 中期目標（平成25年度～平成30年度）（基本目標）	3

2 業務の実績

(1) 総括	4
(2) 計画の主な実績	4
第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	4
第2 業務運営の改善に関する目標を達成するための措置	7
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	8
第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置	8
第5 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	8
第6 予算、収支計画及び資金計画	9
第7 短期借入金の状況	9
第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	9
第9 剰余金の使途	9
第10 その他	10
別紙	11

北海道公立大学法人札幌医科大学事業報告書

1 大学の概要

(1) 大学名

北海道公立大学法人札幌医科大学

(2) 所在地

北海道札幌市中央区南1条西17丁目291番地85

(3) 役員の状況（平成26年4月1日現在）

役 職	氏 名
理 事 長（学長）	島 本 和 明
副理事長	平 山 和 則
理 事	堀 尾 嘉 幸
理 事	乾 公 美
理 事	山 下 敏 彦
理 事	白 崎 賢 治
監 事	小 寺 正 史
監 事	山 本 剛 司

(4) 学部等の構成

① 学部等

医学部 医学科
保健医療学部 看護学科
理学療法学科
作業療法学科
医療人育成センター

② 大学院

医学研究科 医科学専攻（修士課程）
地域医療人間総合医学専攻（博士課程）
分子・器官制御医学専攻（博士課程）
情報伝達制御医学専攻（博士課程）
保健医療学研究科 看護学専攻（博士課程前期・後期）
理学療法学・作業療法学専攻（博士課程前期・後期）

③ 助産学専攻科

④ 附属病院（平成26年4月1日現在）

診療科数	26 診療科
病床数	938 床
室数	273 室

⑤ その他の附属施設等

附属総合情報センター、附属産学・地域連携センター、 医学部附属フロンティア医学研究所、医学部附属教育研究機器センター、 医学部附属動物実験施設部
--

(5) 学生数及び教員数（平成26年4月1日現在）

学部学生	1,025 人
大学院生	303 人
研究生	100 人
訪問研究員	123 人
留学生	1 人
教員数	384 人
職員数	1,183 人

(6) 沿革

<p>本学は、北海道総合開発の一環として、昭和25年に旧道立女子医学専門学校を基礎に、戦後の新制医科大学第一号の医学部医学科の単科大学として開学した。</p> <p>その後、平成5年には札幌医科大学衛生短期大学部（昭和58年開学）を発展的に改組することにより、保健医療学部として開設し、本道で唯一の公立医科系総合大学として発展してきた。</p> <p>この間、医師をはじめとする多くの医療人を育成するとともに、先進医学・保健医療学の研究や高度先進医療の提供、さらには地域への医師派遣等を通じて、北海道の医療・保健・福祉の向上に大きく貢献してきた。</p> <p>平成19年4月には、新たな理念及び行動規範を掲げ、理事長のリーダーシップの下、最高レベルの医科大学を目指して、北海道公立大学法人札幌医科大学として新たに出発した。</p> <p>平成20年10月には、新たな教育組織として、教養教育と専門教育（医学及び保健医療学）の有機的連携の下、高度な医療技術を有し、かつ、高い医療倫理と教養を備えた人間性豊かな医療人を育成することを目的に、医療人育成センターを開設した。</p> <p>平成22年には、開学60周年（創基65周年）を迎え、「記念講演会」（道民公開講座）等、様々な取組により、これまでの本学の歩みや今後の方針等について、広く情報発信を行った。</p> <p>平成23年4月には研究機能の強化を図るため、医学部附属がん研究所等の研究部門を再編し、医学部附属フロンティア医学研究所を設置した。</p> <p>また、平成24年4月には、創造性に富み人間性豊かな助産師の育成を行い、北海道の母子保健の発展と充実に貢献することを目的に助産学専攻科を開設した。</p>
--

(7) 建学の精神

- 一、進取の精神と自由闊達な気風
- 一、医学・医療の攻究と地域医療への貢献

(8) 理念

- 最高レベルの医科大学を目指します
- ・人間性豊かな医療人の育成に努めます
 - ・道民の皆様に対する医療サービスの向上に邁進します
 - ・国際的・先端的な研究を進めます

(9) 行動規範

1. 医学と保健医療学を通じて、北海道そして広く日本社会さらに世界に貢献します。
2. 最高の研究・教育・診療レベルを目指します。
3. 法令を遵守し、生命倫理・研究倫理・社会倫理を尊重します。
4. 地域と社会に対して必要な情報を公開します。
5. 人権・人格・個性を尊重し、差別・ハラスメントの無い環境を目指します。
6. 生命倫理・社会倫理を脅かす反社会的行為に対し毅然として対応します。
7. 地域・地球環境を守り、環境の保全・改善のために行動します。

(10) 中期目標（平成25年度～平成30年度）（基本目標）

1. 創造性に富み人間性豊かな医療人を育成し、本道の地域医療に貢献する。
2. 進取の精神の下、世界水準の研究を推進し、国際的な研究拠点の形成を目指す。
3. 高度先進医療の開発・提供を行い、本道の基幹病院としての役割を果たす。
4. 地域への医師派遣等を通じ、本道の地域医療提供体制の確保に向け、積極的な役割を果たす。
5. 最新の研究・医療に関する情報の地域社会への提供、より一層の産学官連携を進め、研究成果の社会還元に努める。
6. 国際交流を推進し、国際的医療・保健の発展に寄与する。

2 業務の実績

(1) 総括

本学は、公立大学法人として発足後、平成25年度で7年目を迎え、第1期中期計画に続く第2期中期計画の初年度として、新たな中期計画の達成に向けた積極的な取組を進めた。

教育の分野においては、学籍・成績・出席管理等の機能を備えた学生サポートシステムを本格的に稼働させたほか、顕在化している医師不足に対し、北海道立の医科大学として道内で医学・医療に従事する医師を養成するために、医学部において平成25年度入試から設置している「北海道医療枠」の募集定員35名を、平成26年度入試から55名に増員するとともに、医学部長が道内高校を訪問し説明するなど高校生に向けて広く周知した。また、国家資格試験については、今年度も全ての職種において全国平均を上回り、特に看護師国家試験は看護系大学で全国1位となる11年連続合格率100%を達成した。

研究の分野においては、引き続きトランスレーショナルリサーチ事業の推進に取り組み、ヒト癌ワクチン及び脳梗塞再生医療に係る治験を継続実施したほか、脊髄損傷患者に対する再生医療の医師主導治験を新たに開始した。

附属病院においては、手術支援ロボットの運用を開始し、手術支援ロボットを用いた医療技術について診療科の拡充を図り、MRIの増設を行うとともに、遺伝相談・カウンセリング体制の構築・実施に向け「臨床遺伝外来」を開始した。

業務運営においては、引き続きプロパー職員の採用に努め、事務職員に対して継続的なSD活動を実施したほか、業務外部委託化を推進し、業務の簡素化、効率化に取り組んだ。

社会貢献としては、引き続き地域医療機関への支援のため医師派遣を行うとともに、道内の第二次医療圏の中で唯一分娩体制が整備されていない南檜山医療圏における分娩体制の再開に応え、道立江差病院において3月から産科周産期医師の常駐化を図った。また、将来の社会貢献の担い手となる医師の養成を図るため、平成20年度から導入した特別推薦枠に加え、北海道医療枠の拡充を図るとともに、臨床研修医の確保に向け、初期臨床研修医の支援体制の充実を図るなど、研修・専門医養成・生涯教育を通じ地域医療への貢献に取り組んだ。その他、マサチューセッツ州立大学、アルバータ大学、佳木斯（ジャムス）大学との交流協定を更新するなど積極的な国際交流を推進した。

さらに、北洋銀行との協定事業によるラジオ番組「医の力～札幌医科大学 最前線～」(エフエム北海道・AIR-G')を4月から平成26年3月まで全52回放送するとともに、オカモトグループの協力を得て、テレビ番組「医の1番!～札幌医科大学の挑戦～」(HBC北海道放送)を10月から12月まで全10回放送し、広く本学の教育・研究・診療の最新情報を発信した。

今後も第2期中期計画の達成に向けて、人的、物的ネットワークを活用し、理念に掲げる最高レベルの医科大学を目指し邁進していくものである。

(2) 計画の主な実績

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

○初期臨床研修2年目からの大学院進学が可能な「研修医コース」の開始

初期臨床研修2年目から大学院博士課程への進学が可能な「研修医コース」の平成26年度入学生からの適用を決定し、道内外の医科大学や研究機関、医療機関等に対して学生募集要項やポスターを送付し「研修医コース」の周知を図るとともに、初期臨床研修医の受験を促した。

○医学部カリキュラム改編に向けた教養科目の見直しと改善

平成26年度入学生対象の医学部カリキュラムの改編に向け、次のとおり見直し方針を決定した。

- ・リメディアル教育（大学教育を受けるために必要な基礎学力を補う補習教育）を充実させ、高校で履修していない科目を入学後1か月で集中的に教育するため「基礎生物学」を廃止して「基礎物理・化学・生物」を新規開講する。
- ・教養科目と医学との結びつきを強化するため「生物学」及び「医学物理1」を「生命科学Ⅰ・Ⅱ」に改編する。また、「生命化学」について、専門科目「生化学」とのつながりを強化した「基礎生化学」に改編する。
- ・実用的な英語力の向上のため「英会話」を第2外国語選択群の1つに加えて新規開講する。
- ・「文学」担当教員を日本人から英語のネイティブ教員に変更し、日本文学について 英語でレクチャーやディスカッションを行う内容に改編する。
- ・PBLチュートリアルをベースにした「新入生チュートリアル」を新規開講する。
- ・自由選択科目であった「地域医療合同セミナー1」を必修化とする。
- ・「医学入門セミナー」を拡充して、医学部の全教授による講義を実施する。

○FDセミナーの企画と実施

FD教育セミナー3回、新任教員研修1回、FDワークショップ1回、公開セミナー1回を実施し、教員の資質と教育能力の向上に繋がるよう努めた。

〈今年度実施したFD活動〉

- ・FD教育セミナー
 - 「グローバル化する日本の医学教育について」（5月）
 - 「スマホ時代のリスク管理」（12月）
 - 「医学教育実践の立場から入学試験のあり方を考える」（1月）
- ・新任教員研修
 - 「医療教育者として備えておくべきこと」（11月）
- ・FDワークショップ
 - 「チュートリアル教育について」（2月）

○学生サポートシステムの本格稼働

4月から学籍・成績・出席管理等の機能を備えた学生サポートシステムを稼働させた。10月からはICカードリーダー端末からの出席登録の運用を開始し、11月には保健医療学部においてWEB上でのシラバス登録・公開機能の運用を開始した。

○がんワクチン、脳梗塞再生医療に係る治験の継続実施

がんワクチンに係る治験については、平成24年8月から実施していた第1相試験を5月に完了し、第2相試験を11月から開始した。また、脳梗塞再生医療に係る治験については、平成25年3月から開始した治験に継続して取り組んだ。

○脊髄損傷患者に対する再生医療の医師主導治験開始

脊髄損傷患者に対する再生医療の医師主導治験を、11月から新たに開始するとともに、各方面で本治験を周知し、被験者の確保に努めた。

○科学研究費補助金獲得の支援

科学研究費補助金の獲得を支援するため、研究者向けの科学研究費公募要領等説明会を開催するとともに、若手研究者等を対象とした科学研究費申請書作成レクチャーを開催した。

○ハイブリッド手術室や手術支援ロボット等の活用による附属病院の機能強化

ハイブリッド手術室を活用した高度専門医療技術の提供を行うとともに、手術支援ロボット（ダ・ヴィンチ）の運用を6月から開始し、保険適用（泌尿器科の前立腺がん手術）外である大腸がん手術を、新たに第1外科において実施するなど診療科の拡充を図った。さらに、従来3台であったMRIを5台に増設整備を行い、MRI検査の予約待ち時間の短縮を図った。

○「臨床遺伝外来」の外来診療開始

遺伝相談・カウンセリング体制の構築・実施に向けた検討を行い、9月には「臨床遺伝外来」のホームページを開設し、診断内容や受診方法等について広く周知するとともに、11月から「臨床遺伝外来」として外来診療を開始した。

○「理学療法士・作業療法士研修プログラム」の創設

高度化する医療に対する最先端の理学療法・作業療法を推進するため、基礎的・専門的知識、技術、医療人としての態度等を包括した臨床能力の向上を目指し、4月に「理学療法士・作業療法士プログラム」を新たに創設し、平成26年度研修生の募集を行った。

○診療支援要請への対応

道や関係機関と連携し、地域医療機関からの診療支援要請に応えるため、地域医療支援センターにおいて審議の上、次のとおり医師派遣を行った。

※要請件数：2,292件 派遣実績：2,172件 応諾率：94.8%
（うち公的医療機関派遣実績：1,298件
公的医療機関派遣割合：59.8%）

○地域中核病院との診療連携による専門医療技術提供の推進

6月から手術支援ロボットの共用を開始し、専門医療に係る手術が可能な附属病院の設備を提供することにより、地域医療に従事する医師の治療技能向上を図る体制を整えた。また、顕微鏡手術に熟練した人材を養成し、手術の安全性や治療実績概要の向上に役立てるため、4月に市立室蘭総合病院と「顕微鏡手術トレーニングセンター」に係る連携協定を締結した。

○産科周産期・循環器に係る医師の地域医療機関への継続的な派遣・常駐化に向けた取組

地域医療の確保を目的とした特設講座（道民医療推進学講座、南檜山周産期環境研究講座）により、地域医療を担う医師の養成に関する調査、研究を行い、産科周産期・循環器に係る医師の派遣・常駐化に向けた取組を進めた。さらに、道内の第二次医療圏の中で唯一分娩体制が整備されていない南檜山医療圏における分娩体制の再開に応え、道立江差病院において3月から産科周産期医師の常駐化を図った。

○公開講座・講演などの積極的な開催と情報発信

北海道の医療・保健の向上や道民の命を守ることを目的に北海道新聞社との間で締結している連携協定「健やか北海道プロジェクト」による公開講座「すこやかライフ講座」を本学で3回開催し、初の地方開催の取組として、8月には中標津町と留萌市において開催した。また、大地みらい信用金庫及び留萌信用金庫と新たに連携協定を締結し、本学学生が実習を通じて地域住民や多職種とのコミュニケーション能力を高めるメディカル・カフェを、初めての地方開催として9月に中標津町と留萌市で実施した。

〈すこやかライフ講座開催状況〉

- ・6月6日 医学部心臓血管外科学講座 樋上哲哉教授
「いのちを守る心臓外科医療の最前線」
- ・7月9日 医学部泌尿器科学講座 舛森直哉教授
「泌尿器がん治療の最前線～分子標的薬からロボット手術まで～」
- ・8月7日 医学部公衆衛生学講座 森満教授（中標津町）
「がんを予防する～楽しく、かつ、真剣に～」
- ・8月9日 医学部細胞生理学講座 當瀬規嗣教授（留萌市）
「体のしくみー生きることを考える」
- ・10月22日 医学部形成外科学 四ツ柳高敏教授
「顔の先天性疾患をどう治す？ー形成外科医の挑戦ー」

〈メディカル・カフェ開催状況〉

- ・9月26日 保健医療学部基礎・臨床医学講座 齋藤重幸教授（中標津町）
「高血圧とうまく付き合っていくためには」
- ・9月27日 医学部整形外科学講座 射場浩介准教授（留萌市）
「骨コツ伸ばす健康寿命～骨粗鬆症を予防しよう～」

○協定大学との大学交流の促進

マサチューセッツ州立大学、アルバータ大学及び佳木斯（ジャムス）大学との協定を更新した。このうち、アルバータ大学については、派遣先として医学・歯学部及びリハビリテーション医学部の2学部であったところ、新たに看護学部を追加することとした。さらに研究者について、中国医科大学からの受入、佳木斯大学への派遣・受入、マサチューセッツ州立大学、アルバータ大学及びフィンランドヘルシンキ大学病院への派遣、フィンランドトゥルク大学からの受入を実施した。また、学生交流として中国医科大学及び韓国カトリック大学への派遣・受入、アルバータ大学への語学研修派遣を実施するなど、積極的な国際交流を行った。

第2 業務運営の改善に関する目標を達成するための措置

○事務職員への継続的なSD活動の実施

事務職員研修の実施計画として「平成25年度札幌医科大学事務局職員研修計画」を定め、新たな研修を実施するなど研修メニューの多様化、充実化を図りながら、次のとおり継続的なSD活動を実施した。

〈今年度実施したSD活動〉

- ・新規採用職員研修（4月）
- ・財務会計事務研修（4月、10月）
- ・HP作成研修（6月）
- ・簡潔ワンペーパー作成研修（7月）
- ・クレーム対応研修（9月）
- ・女性職員のための未来創造研修（2月）
- ・論理的説明力（3月）

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

○財務内容の改善による運営費交付金の縮減

診療収入の増加や経費節減に取り組み、収入総額の増加及び運営費交付金の縮減を図った。これにより、計画目標（少なくとも前年度比1%縮減）を達成した。

※平成24年度運営費交付金：5,259百万円

平成25年度運営費交付金：5,204百万円（前年度比1.0%縮減）

第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

○ラジオ番組及びテレビ番組による積極的な情報発信

北洋銀行との協定事業で、研究成果、附属病院各診療科の特徴や最新事例等を本学の教授等が出演し情報発信するラジオ番組「医の力～札幌医科大学 最前線～」（エフエム北海道・AIR-G）を、放送開始から3年目となる平成25年度も継続し、4月から3月まで全52回放送するとともに、放送内でのインフォメーションを活用して公開講座等を周知した。さらに、オカモトグループの協力を得て、本学の特色ある教育や研究成果、高度先進医療の取組等を紹介するテレビ番組「医の1番！～札幌医科大学の挑戦～」（HBC北海道放送）を10月から12月まで全10回放送した。

第5 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

○ESCO事業による省エネの実施

平成22年度から本格的に開始したESCO事業による省エネ率は、平成25年度において14%を達成した。また、本事業が北海道経済産業局主催の平成25年度「北国の省エネ・新エネ大賞（有効利用部門）」を受賞した。

第6 決算、収支計画及び資金計画

別紙のとおり

第7 短期借入金の状況

※平成25年度の計画

①短期借入金の限度額

15億円

②想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延及び事故発生等により緊急に必要な
なる対策費として借り入れすること。

※平成25年度の実績

該当なし

第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

※平成25年度の計画

該当なし

※平成25年度の実績

該当なし

第9 剰余金の使途

※平成25年度の計画

全学的視点に立ち、教育・研究・診療の質の向上及び組織運営
の改善に充てる。

※平成25年度の実績

該当なし

第10 その他

1 施設及び設備に関する計画

※平成25年度の計画 (単位：百万円)

施設・設備の内容	予定額	財源
施設整備事業費	567	施設整備費補助金
医療機器整備費	520	長期借入金

※平成25年度の実績 (単位：百万円)

施設・設備の内容	実績額	財源
施設整備事業費	547	施設整備費補助金
医療機器整備費	520	長期借入金

2 人事に関する計画

※平成25年度の計画

第2の2「組織及び業務等に関する目標を達成するための措置」に記載のとおり

※平成25年度の実績

第2の2「組織及び業務等に関する目標を達成するための措置」に記載のとおり

3 積立金の使途

※平成25年度の計画

次の業務の財源に充てる。

- ・ 大学（附属病院含む。）に係る施設設備整備事業
- ・ その他、教育・研究・診療・社会貢献に係る業務及びその他
 附带業務

※平成25年度の実績

知事の承認を受けた前中期目標期間繰越積立金のうち
298百万円を教育・研究・診療等の質の向上等に充てた。

別紙

平成25年度 決算

北海道公立大学法人札幌医科大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額(決算-予算)	備 考
収入				
運営費交付金	6,306	6,149	△ 157	
施設整備費補助金	567	547	△ 20	
自己収入	23,380	24,328	948	
授業料及び入学金検定料収入	867	843	△ 24	
附属病院収入	21,574	22,493	919	
雑収入	939	992	53	
受託研究等収入及び寄附金収入等	1,017	2,393	1,376	
長期借入金収入	520	520	0	
目的積立金取崩	0	298	298	
計	31,790	34,235	2,445	
支出				
業務費	29,364	29,548	184	
教育研究経費	1,692	1,778	86	
診療経費	11,602	12,631	1,029	
人件費	15,566	14,715	△ 851	
一般管理費	504	424	△ 80	
施設整備費	1,087	1,067	△ 20	
受託研究等経費及び寄附金事業費等	807	688	△ 119	
長期借入金償還金	532	531	△ 1	
計	31,790	31,833	43	
収入-支出	0	2,401	2,401	

平成25年度 収支計画

北海道公立大学法人札幌医科大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額(決算-予算)	備 考
経常費用	30,911	30,992	81	
業務費	28,795	28,641	△ 154	
教育研究経費	1,871	1,762	△ 109	
診療経費	11,030	11,873	843	
受託研究費等	327	259	△ 68	
役員人件費	94	87	△ 7	
教員人件費	4,482	4,120	△ 362	
職員人件費	10,991	10,540	△ 451	
一般管理経費	504	459	△ 45	
財務費用	12	11	△ 1	
減価償却費	1,600	1,881	281	
経常収益	30,911	31,118	207	
運営費交付金収益	6,271	5,591	△ 680	
施設費収益	0	44	44	
授業料収益	764	742	△ 22	
入学金収益	87	82	△ 5	
検定料収益	15	16	1	
附属病院収益	21,574	22,493	919	
受託研究等収益	399	322	△ 77	
寄附金収益	610	624	14	
雑益	908	856	△ 52	
資産見返運営費交付金等戻入	64	67	3	
資産見返寄附金戻入	64	73	9	
資産見返補助金等戻入	116	169	53	
資産見返物品受贈額戻入	39	39	0	
経常損益	0	126	126	
臨時損失	0	8	8	
臨時利益	0	9	9	
純損益	0	127	127	
目的積立金取崩額	0	81	81	
総利益	0	208	208	

(注) 金額の端数処理は百万未満を四捨五入しておりますので、合計金額と一致しないことがあります。

平成25年度 資金計画

北海道公立大学法人札幌医科大学
(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額(決算-予算)	備 考
資金支出	31,790	38,386	6,596	
業務活動による支出	30,036	29,669	△ 367	
投資活動による支出	1,222	4,778	3,556	
財務活動による支出	532	1,225	693	
翌年度への繰越金	0	2,713	2,713	
資金収入	31,790	38,386	6,596	
業務活動による収入	30,704	31,634	930	
運営費交付金による収入	6,306	6,149	△ 157	
授業料及び入学検定料による収入	867	788	△ 79	
附属病院収入	21,574	22,147	573	
受託収入	365	398	33	
寄附金収入	652	1,037	385	
その他収入	939	1,111	172	
預り科学研究費補助金等増減	0	4	4	
投資活動による収入	567	2,613	2,046	
施設費による収入	567	519	△ 48	
その他収入	0	2,094	2,094	
財務活動による収入	520	520	0	
前年度よりの繰越金	0	3,619	3,619	

(注)金額の端数処理は百万未満を四捨五入しておりますので、合計金額と一致しないことがあります。